事業の普及啓発・認知度向上をめざす
広報ツールのご紹介
～救急安心センターおおさか～

救急安心センターおおさか（以下、「当センター」という。）は、事業の普及啓発・認知度向上を目的として毎年、広報ツールを製作しています。左図は令和3年度に製作したカードとカードホルダーです。デザインは平成29年に制作したポスターのデザインと同じものを採用しています。病院・官公庁・駅等で見かけたことがある方もいらっしゃるのではないでしょうか。

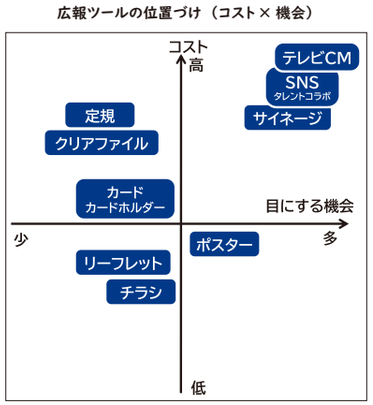
今月の「救急いろは」はこうした広報ツールをその製作過程からご紹介します。

広報ツール製作の考え方

左図は、広報ツールの製作を検討する際、参考にする図（マトリクス）です。横軸を「大多数の目に触れる機会が多い・少ない」、縦軸を「費用が高い・低い」として、ツールごとにポジショニングし、「広報作業部会」という。）の会議で製作を決定しています。府内の消防本部（局）から選出された代表者は、各ブロック内の消防本部（局）の意見を吸い上げながら調整するので、いわば、大阪府内の全消防本部（局）が協力して製作したものと言えます。

基本的なスケジュールは左図のとおり、6月頃から会議を重ね、翌年度に事務局である大阪市消防局にて契約事務を行い府内の消防本部（局）に納品されます。

広報ツールの位置づけ（コスト× 機会）



広報ツールの製作スケジュール

製作スケジュール

令和5年度に製作した広報ツール

令和5年度は、「リーフレット」「書けるクリアファイル」の2つのツールを製作しました。

SNSを利用した広報は若い世代に大きな効果が期待できますが、高齢者層には不向きな側面もあります。逆にチラシは高齢者層にも効果がありますが、読み捨てになる可能性があります。

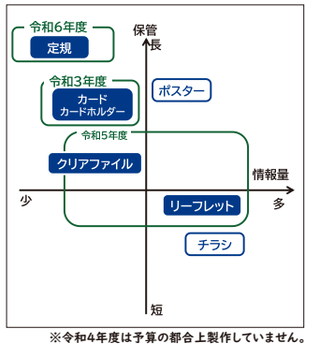
手に取りやすい「リーフレット」で、幅広い年代の方に多くの情報を持ち帰っていただきたいと考えました。また、幼少期から当センターの存在を知ってもらうことを狙い、小・中学生の学習用にぴったりな「書けるクリアファイル」も製作しました。

■書けるクリアファイル

クリアファイルは日常的に使う文房具ですが、当センターの広報ツールは、「書けるクリアファイル」。読んで字のごとく文字を書くことができるクリアファイルです。鉛筆やシャープペンで書いて消しゴムで消して書き直せてしまう優れもの。ちょっとしたメモを記してノート感覚で使用することができます。府内の消防本部の職員が描いた犬のイラストが施され、小中学生をはじめ幅広い年代に使用してもらえると思います。

この広報ツールは主に消防署で配布するなどしています。少しでも多くの方が、近くの消防署を訪れるきっかけとなればと考えています。

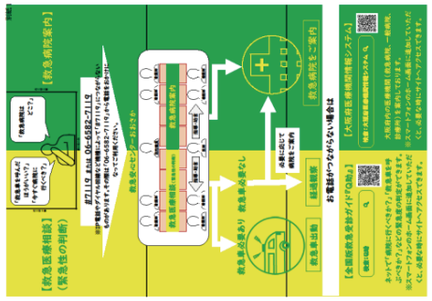
直近4年間に製作した広報ツールの位置づけ
（保管期間 × 情報量）



※令和4年度は予算の都合上製作していません。

■リーフレット

当センターのリーフレットは三つ折りタイプのもので、コンパクトでありながら多くの情報を掲載しています。イベント等で配布した際も、手に取ってもらいやすく、持ち帰って保管いただくことが期待できます。



令和6年度の広報ツール

令和6年度は、救急安心センターのロゴがついた定規を製作する予定です。リーフレットやクリアファイル以上に長く手元においていただき、子供から大人まで幅広い世代で日常的に使用していただきたいと思っています。

■定規
（救急安心センターロゴ入り）

日常使いの中で広報効果を発揮するために、定規のデザインには、様々なこだわりを盛り込んでいます。特徴的なロゴを中心にして人目を引き、全体は救急車をイメージする清潔な白色の上に清涼感溢れる水色を基調とし、#だけを赤色で強調。一度見たら忘れにくいものにしました。

ロゴの左側の赤色の部分は、電話のボタンをイメージしたもので、□を9つ連ねて配置し、隙間で#を見せています。水色の文字は安心と7ー1ー9の文字を合体させています。

「救急車を呼ぶか？病院に行くか？」の表記で、この定規を見れば事業内容と電話番号が分かるものとなっています。

さいごに

当センターの事業の認知度はまだまだ高いとは言えません。少しでも多くの府民に「#7ー1ー9」を知ってもらうために、これら広報ツールがその一助となるよう、今後も効果的な啓発活動を検討していきます。

「救急車を呼ぶか？ 病院に行くか？」お困りの際には安心の電話#7ー1ー9（救急安心センターおおさか）をご利用ください。

We are Rookies

徒手体操

目的：体幹部の強化！　疲労回復の促進！

徒手体操とは、 器械・器具を使わない素手で行うトレーニングのこと。
『いつでも、どこでも、簡単に』実施者の目的に応じて　行うことができます。

消防学校では、初任教育生の体力増進のため、講師をお招きして徒手体操を行っています。今回は「体幹部の強化」と「疲労回復の促進」に重点を置いてご指導いただきました。初任教育生は、しっかりと根拠のあるトレーニング法を学べたようです。
今月号では、消防士の身体を強くするトレーニングの様子をご紹介します

歯を食いしばる瀧頭学生
（池田市消防本部）

消防士には、さまざまな災害現場で人を救うために必要な体力が要求されます。
消防学校では、科学的根拠のあるトレーニングを積極的に取り入れ、初任教育生が現場活動に十分耐えうる強靭な体力の錬成に取り組めるよう、共に励んでまいります！！

1月16日、23日、30日、2月6日の4日間の日程で、門真市にある東和薬品RACTABドームのサブプールにおいて、水上安全法の授業が行われました。今回も日本赤十字社大阪府支部の水上安全法指導員の講師の方をお招きし、熱いご指導をいただきました。季節を問わず発生する水難救助事案に対応するために奮闘した初任教育生の訓練風景をご紹介します。

水上安全法

水難救助に大切なものは、
・まずは自身の身を守ること
・物を使うこと
・チームで助けること
　ということを学びました

レスキューチューブを用いての
溺者搬送

チンプルでの溺者搬送

浮環とロープでの救助方法を学ぶ

水上安全法を終えて

第４小隊
塩田学生

今回、水上安全法の授業を受けて感じたことは、陸ではなく水中という環境下で人を救うことの難しさでした。私自身、元々水泳経験があり、泳力には自信がありましたが、河川など流れがあることを考えると陸よりもはるかに危険が多く、自分の泳力を過信してはいけないと実感させられた訓練でした。
私は大阪市の水難救助隊（DR）に憧れて大阪市消防局を目指しました。今回の水上安全法を経験してその水難救助隊になりたいという思いがますます強くなりました。
現場で活躍できる消防士、そして水難救助隊員になれるよう日々の訓練に全力で取り組んでいきます。

消防職員意見発表会

令和６年２月７日に第７１回消防職員意見発表会が開催されました。
前年に続き、今年もすべての発表が充実した内容で、職務に対する熱い思いが語られました。
こちらのページでは、意見発表会に出場した職員の発表内容について、動画を交えてご紹介していきます。
今回は、最優秀賞を受賞した企画課・河野士長の発表を紹介します。

最優秀賞

心の中にサプールを

企画課（企画）
河野　陽介

皆さんはアフリカのコンゴ共和国に根付く「サプール」という文化をご存知でしょうか？月収３万円にも満たない生活をする人々が週末に何十万円もするハイブランドのスーツに身を包み、紳士的で美しい振る舞いをしながら集まる文化です。この文化のために私財を投げ売り、借金をする人もいるほどです。はたから見ると、生活を犠牲にしてまで見た目にこだわる理解に苦しむ文化にも見えますが、その背景には外見だけでなく、エレガントな振る舞いを通して相手に敬意を示し、相手からも尊敬される人になるという信念。また、長年続いた紛争にうんざりし、着飾っている服を絶対に争いで汚さない、争いを起こさないという強い覚悟があります。サプールの人々は単に着飾るためにではなく、どれだけ財政的に苦しくても尊厳と世界平和のためにアルマーニやグッチのスーツに袖を通すのです。

この文化を知った時、ふとある疑問が浮かびました。「自分が活動服に着替える時、そこまで強い信念と覚悟を持ってたかな？」という疑問です。答えはノーです。正直に言うと、私は着替える時は市民の生命、身体、財産を保護するために着替えるのではなく、ただ、規則により定められているから、私服が汗で汚れるのを防ぐため、毎日のルーティーンとしてだらだらと着替えていました。もちろん、そのように着替えた後はプライベートから一人の頼れる消防士に瞬時に切り替わる訳もなく、曲がった背筋のまま目を擦りながら勤務していました。このようなぼんやりとした状態では、テキパキと市民の期待に答えられるわけがありません。本来消防の被服は誰であっても着るだけで市民からの信頼と尊敬を得られる、世界に名だたるハイブランドにも引けを取らない価値のある服装です。ですが、その服装の真価を発揮して消防の使命を遂行するにはサプールの人々のように消防人としての誇りを持ち、誰からも尊敬して貰えるような行動をする信念と覚悟が必要です。そう考えると、恥ずかしながら、自分自身、巷でよく言われるブランドに着られる中身の無い人、消防ブランドに着られる人になっていました。

先輩方から良く聞く話としてこのようなものがあります。「昔は救助服なんてなかなか着させてもらえなかった。このオレンジを着るために日々努力して、模範となれるようにどれだけ頑張ったか。」豊かな職場となり、職員に十分な被服が貸与され、救助服をはじめ、様々な被服を気軽に着用できる今、このような気概を持って被服を着用する人は少なくなっているのではないでしょうか。世界平和を目指して、私財を投げ打って服を着ようとまでは言いません。制服を全てハイブランドに変えようとも言いません。ただ、消防の服に袖を通す時に、今日一日の勤務を無事故に、他の職員の模範となるように、市民の方に尊敬されるように、少し決意するだけで、市民の平和を守ることができるのではないでしょうか。

持ちましょう、心の中に、サプールを。

河野士長へ一問一答

Q１　今回の意見発表会に出場するにあたり、なぜこのテーマにしようと思いましたか。
A１　出場が決まり、６本程いろいろなテーマで文章を書きましたが、どれも微妙でした。そうしてテーマを決めかねていた際に動画サイトで偶然サプールに関する動画を視聴し、その理念が消防にも活きると思ったからです。

Q2　発表会を終えて、周囲の人から聞いた感想を教えてください。
A2　自分が思っていたよりも大きな反響をいただき、正直自分でも驚いています。「良かった」、「感動した」と言ってもらえたことが単純に嬉しかったです。

Q3　被服を通して消防職員としての気概を述べられていますが、市民の方からどのような存在であるべきだと思いますか。
A3　市民の方からの信頼と尊敬を背負う存在であり、常にそれらに応えられるように心身共に姿勢を正して勤務する必要があると思います。

Q4　今回の発表をどのようにビルドアップしましたか？
A4　誰とも内容が被らず、誰でも分かりやすく、誰にでも気付きを与えられる論旨を目指して何度も自分で発表練習及び文章の添削をしました。また、完成したと自分で思った後も同僚に発表を聞いてもらい、サプールに関する説明を大幅に削る等の修正を行いました。

Q5　大阪府下消防職員意見発表会に出場するにあたって意気込みをどうぞ。
A5　府大会でもこれまで支えてくださった皆様への感謝を忘れず、最優秀を目指して謙虚に頑張ります。

Q6　最後に、最優秀賞を受賞されて一言お願いします。
A6　まずは、このような身に余る栄誉をいただけるまで支えてくださった皆様に感謝します。今回出場するにあたって、一番力を入れたのは発表力の向上ではなく、勝ちあがるためにどのように審査員のニーズに的確に答えることができるかといった点を重視しました。今回の出場を通して得た経験をこれからの業務に活かしていけたらと考えています。

事務局コメント

消防職員意見発表会は昭和26年から職員弁論大会という形で始まり、今年で71回目を迎えました。
消防という業務について、未来志向をもって考え、学び、発表することで、職員の消防業務に対する意識の高揚、知識の研鑽と、自身の考えを整理して相手に伝える力を育むことを目的としています。
そして、「伝える」だけではなく、相手に「伝わる」発表力、表現力、説得力を養い、その先に職場の中でお互いに自由に意見が言い合えることで、職場の活性化に繋がり、職員一人ひとりよりよい仕事ができることを願っています。

高度専門教育訓練センター　人材育成担当

八尾市消防本部

指令システム障害対応訓練を実施しました

八尾市消防本部では、令和５年６月１７日（土）に高機能消防指令センターに障害が発生した場合を想定し、別フロアの消防署作戦室を利用した１１９番通報迂回措置訓練（署落とし訓練）を実施しました。

本訓練は、当市消防本部が定める「高機能消防指令センター障害対応マニュアル」に基づき、障害の状況をすばやく把握し、迂回措置に必要な機器設営等の準備を迅速に整え、さらに実際の１１９番通報を想定した模擬通報をブラインド形式で受信し、実動消防車両の運用を手作業で管理しながら、複数の災害に対応するもので、毎年実施しております。

地震や風水害等の大規模災害時以外においても、通信回線の広域的な障害発生や、消防指令システムが突然ダウンする可能性を常に考慮しておく必要があることから、今後も継続して指令課員の危機対応能力の向上に努めてまいります。

豊中市消防局

豊中市災害対応ドローン隊「愛称：KITE(カイト)」　運用開始!

令和６年（2024年）４月１日（月）、豊中市消防局は豊中市災害対応ドローン隊「愛称：KITE（カイト）」の運用を開始しました。

ドローン隊は、消防職員１４名・消防団員４名で構成され、災害発生時にドローンを活用して、市内の被害状況の迅速な把握や救助捜索活動などを行い、被害の軽減を図ることを目的としています。

愛称の「KITE（カイト）」は、日本語で「鳶（とび）」を意味します。由来は、上空で輪を描くように滑空し、優れた視力で目標を補足する鳶の姿が、災害現場を撮影できるドローンと似ていること、また鳶のくちばしに似ていることから名前の由来となっている消防資機材の「とび口」や、大豊神社（京都市左京区）愛宕社前に火難除けとして狛鳶（とび）の像が置かれていることなど、鳶は消防と所縁（ゆかり）があることから命名しました。

今後もドローンを災害現場で効果的、効率的に活用するため、更なる知識、技術の習熟に努めていきます。

松原市消防本部

文化財防火デーに伴う合同消防訓練

令和６年1月２６日（金）、松原市内の熱田神社で文化財を火災、震災その他の災害から守るとともに、市民の文化財愛護に関する意識の高揚を図るため、神社関係者及び消防本部、消防団が連携した合同消防訓練を実施しました。

訓練では神社拝殿からの火災発生を想定し、神社関係者による通報訓練や水消火器を使用した初期消火訓練を実施。その後、駆け付けた消防本部と消防団が連携を取りながらポンプ相掛りによる消火訓練を実施するなど、たいへん活気ある素晴らしい訓練となりました。

市民にとって貴重な財産である文化財を火災等の被害から守るためには、文化財関係者はもとより、広く地域の方々や消防機関が一体となり取り組むことが重要です。

今回の訓練を通して参加者全員が有事における行動を再確認する貴重な機会になるとともに、今後も文化財を守るため神社関係者をはじめ消防本部と消防団が継続して連携を密にした訓練を行い、文化財の保護に努めてまいります。

貝塚市消防本部

CRMオンライン研修会を実施しました!

「あなたは、上司の勘違い・ミスを指摘できますか？」「部下は、あなたの勘違い・ミスを指摘してくれますか？」これはＣＲＭ視点からの問題提起です。

ＣＲＭとは、災害現場での事故を未然に防ぐという共通の目的に対して、上司と部下が対等に話し合える環境土壌をつくり、「事故を未然に防いで事故率を軽減する」といった直ちに実施することができるノンテクニカルスキルを中心とした、航空業界で導入されている安全管理概念です。

貝塚市消防本部では、職員全体の安全管理意識向上と事故が起こりにくい環境作りを目指し、富山県東部消防組合の上樂様を講師にお迎えし、ＣＲＭオンライン研修会を令和５年度内３回にわたり実施しました。

重大事故を無くし、安全で効率的な活動を実現することは市民の安全・安心に直結します。

今後も積極的に様々な研修を実施し、市民サービスの向上に努めてまいります。

消防漢字ガール

Fire Fighter Kanji Girl

国立大学文学部卒で大阪市内の某消防署に勤務する、漢字を愛してやまない消防女子「淀橋文子」が防火防災に関する「漢字」の意味や成り立ちを解説する「消防漢字ガール」。さて、今月の漢字は…。

【命】

意味：言いつける。なづける。いのち。生命。天の定め。みこと。

皆さん、はじめまして。新連載の『消防漢字ガール（Fire Fighter Kanji Girl）』を担当させていただきます大阪市消防局勤務、消防士3年目の淀橋文子（あやこ）です！よろしくお願いしますっ（ちょっと緊張気味）。今月ご紹介する漢字は、わたしたち消防職員が護る最も大切なもの、そうです「命（いのち）」です。「命」という漢字は、「口」と「令」の2つの文字からできていて、このように2文字以上の漢字の形や意味を組み合わせて作られた漢字を「会意文字」と言います。

「令」は上部が冠の象形で下部は人がひざまずいている象形、「口」は神への祝詞を入れる器（サイ）の象形を表していると言われていて、儀礼用の深い帽子をかぶった人がひざまずいて神のお告げを受けている様子から「神のお告げ、神のおおせ、言いつけ、（神から与えられた）いのち」を意味するんだそうです。

つまり、いにしえの人々は、「命」とは神様のお告げを受けて与えられたものと考えていたことが分かります。

音読みは「メイ」、「ミョウ」、訓読みでは「いのち」、常用漢字表外では「おお（せ）」、「みこと」とも読みます。画数は「8画」、部首は「へ（ひとがしら）」です。

※訓読み⇒（）の中は「送りがな」

わたしは、消防士にとって最も大切なのは「人の命を護りたい」という強い気持ちだと思っています。男性ばかりが活躍する職業だと思われがちですが、女性だからできること、わたしだからできることもたくさんありますし、「負けるもんか！」と思って頑張っています。ということで、今月はこれでおしまい。もうすぐ勤務明けなので交代前に自分の防火衣を片付けなきゃ。あ、この1当務は火災出場はありませんでした。じゃあね～。

【今月の警防担当司令の迷言】
「淀橋、てれこで休みやったから一緒に勤務すんの久しぶりやな。」
（文学部卒のわたし、「てれこ」って言葉、消防署に勤めて初めて知りました。どこの方言なん？）

一緒に備えましょ！

災害いつなんどき

今年度から連載を開始するこのコーナー。市民の方と接する機会の多い職員にこそ知っておいてほしい、読んでタメになる、使えるネタをお伝えしていきます。

知ってる？あべのタスカル

今回は大阪市立阿倍野防災センター「あべのタスカル」に関する雑学についてご紹介します！
あなたは全部知っていますか？

いつ生まれた？防災体験学習施設

大阪市立阿倍野防災センターの供用開始は、平成16年5月1日。その後、東日本大震災をはじめ近年発生した災害の教訓を取り入れた学習内容への更新と、老朽化した設備やシステム機器の整備のため、平成28年度から平成30年度に再整備事業を実施。

「防災を自分自身の問題としてとらえ、具体的な防災行動につながる体験型学習施設へ」を再整備コンセプトに、「自分で選べる」・「地域特性に応じた」・「帰宅後の防災行動につながる」体験学習ができる展示内容へと更新し、平成31年4月にリニューアルオープンを迎え現在に至っています。

「あべのタスカル」という愛称の意味

「あべのタスカル」という愛称は、再整備に伴い、消防局において事前に考案した3つの愛称案から、市民による投票にて決定しました。

「あべのタスカル」という愛称には、防災センターにおいて、最新の防災知識や技術を体験学習することで、災害発生時に「助かる」人となり、そして大切な人を「助ける」人になってほしい、という消防局の願いが込められています。

「レスキューパンダたすける」について

あべのタスカルのマスコットキャラクター、「レスキューパンダたすける」は何と大阪市消防局の職員がデザインしたものです。

愛嬌溢れるデザインには、防火防災への様々な想いが込められています。

体験してくれた方に、プレゼントがあります！

あべのタスカルでは、「キッズしょうぼうパーク」内の「ぼうか・ぼうさいクイズ」にチャレンジしてくれた方に、成績に応じたカードをプレゼントしています。

また、体験コースを回って体験記録カードにスタンプを5つ集めた方には記念品をプレゼントしています。（スタンプは1日1つまで）

あなたもぜひ、体験して学んで、プレゼントを手に入れて下さいね！

いかがでしたか？
今回は知ってるようで意外と知らないあべのタスカル関連の雑学をお届けしました。
いつ何時来るか分からない災害に備えるために、積極的に活用して防火防災力を高めましょう！

☆おまけ☆
レスキューパンダたすけるクイズ！あなたはいくつ知ってる!?
【問題1】レスキューパンダたすけるの誕生日はいつ？
【問題2】レスキューパンダたすけるの好きなスポーツは？
【問題3】レスキューパンダたすけるのしっぽには何がデザインされている？
【問題4】レスキューパンダたすけるは何の動物が進化した？

【解答1】11月9日【解答2】ラグビー【解答3】「119」の数字【解答4】レッサーパンダ